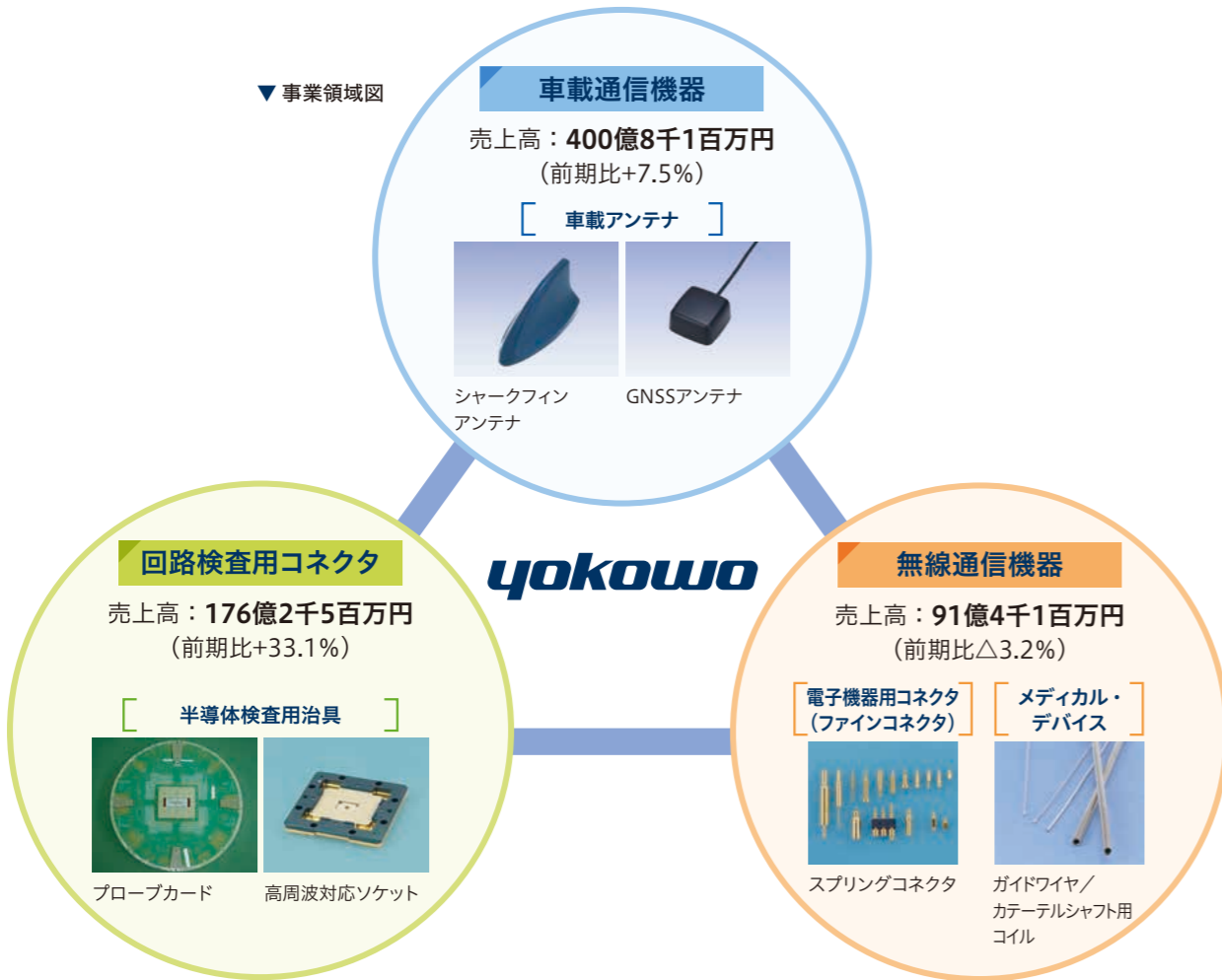


# ヨコオの事業領域

当社グループは、微細精密加工技術を深化させながらアンテナ技術やマイクロウェーブ技術などさまざまな技術を導入し磨き上げてきました。アンテナやコネクタ、先端デバイス製品と事業領域を拡大し、現在では、車載通信機器、回路検査用コネクタ、無線通信機器の3セグメントで事業を展開しています。



## 車載通信機器

主に自動車市場向けに、シャークフィンアンテナをはじめとする自動車用アンテナ（車載アンテナ）を製造しています。車載アンテナの基本ニーズである小型化・複合化・低背化・スマート化に応えるため、次世代の車載通信を支えるアンテナシステムをお客さまに開発・提案し続けることにより、安全・快適なモビリティサービスの実現に貢献します。

## 回路検査用コネクタ

主に半導体・電子部品検査市場向けに、前工程検査用プローブカード・後工程検査用ソケットを製造しています。半導体・電子部品などエレクトロニクス機器のデバイス検査において、微細化・高速対応ニーズに応えるべく、微細精密加工技術とマイクロウェーブ技術を駆使し、検査領域全工程におけるソリューションを提供しています。

## 無線通信機器

〈ファインコネクタ事業〉  
主に携帯通信端末市場向けに、各種電子機器の小型化・省スペース化ニーズに応える微細な「スプリングコネクタ」をグローバルに開発・提供しています。  
〈メディカル・デバイス事業〉  
主に低侵襲医療機器市場向けに、OEMガイドワイヤ、カテーテルなどの微細精密部品およびアッセンブリ品の設計から開発・製造まで一貫したサービスを提供しています。

# 車載通信機器セグメント

▼ 車載通信機器連結売上高推移

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
36,256	38,183	39,264	37,292	40,081

(単位：百万円)



## セグメント概要

当セグメントでは、シャークフィンアンテナやGPSアンテナをはじめとする低周波から高周波までの全ての領域に対応した車載アンテナを、主に中国・ベトナムで製造しており、海外生産比率は90%を超えています。販売については、主に日系自動車メーカー向けに、国内のみならず米国やASEAN市場など、グローバルに提供しており、海外販売比率は60%を超えています。

次世代の車載通信を支えるアンテナシステムのリーディングカンパニーとして、アンテナ技術をはじめとするコア技術の継続的な強化と、長期的に利益を生み続けるための収益構造の抜本的改革を推進します。

## セグメント概況 (2021年度)

当セグメントの主要市場である自動車市場は、世界的な半導体不足や新型コロナウイルス変異株の感染拡大による部品調達停滞などの影響が年度を通じて継続したことにより、本格的な挽回生産には至りませんでした。地域別では、米国/中国市場の新車販売台数は前期比で増加したものの、欧州/日本国内市場では減少しました。

このような状況の中、主力製品であるシャークフィンアンテナやGPSアンテナをはじめとする自動車メーカー向けアンテナの国内・海外販売およびETCアンテナなど国内向けを主とする製品の販売は、第2四半期以降の自動車減産に伴う生産調整の影響を受けましたが、前期比では第1四半期の反動増により上回りました。

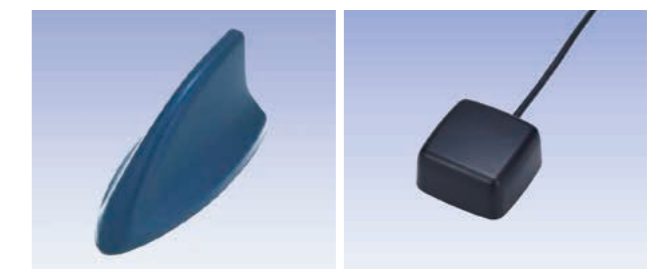
この結果、当セグメントの売上高は40,081百万円(前期比+7.5%)と、前期比で増収となりました。セグメント損益については、海上運賃の高騰などによる物流費増、現地

通貨高に伴う中国/ベトナム生産拠点における労務費などの増加、原材料価格上昇によるコストアップ、自動車メーカーの挽回生産に備えた生産体制維持などにより、1,443百万円の損失(前期は433百万円の利益)となりました。

## セグメント方針

今後は、ADAS (先進運転支援システム) や自動運転、コネクテッドカーなどの新規分野において、より先進的かつ付加価値の高い戦略製品の開発に取り組みつつ、MaaSなどモビリティサービス分野でのプレゼンスを本格化し、さらなる事業拡大と重層化を引き続き推進します。

また、生産拠点における能力増強投資に加えて、2019年度に導入した自動組立ライン・自動検査システムの安定拡大に努めるとともに、中国工場からベトナム工場へのさらなる生産移管拡大、第3生産拠点となるフィリピン工場の安定稼働(2022年4月から稼働開始)やアライアンスの積極活用により、収益構造再建を進めていきます。



シャークフィンアンテナ

GNSSアンテナ

## 回路検査用コネクタセグメント

▼ 回路検査用コネクタ連結売上高推移

(単位：百万円)

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
9,503	9,138	12,832	13,242	<b>17,625</b>



### セグメント概要

当セグメントでは、微細精密加工技術を駆使したコンタクトプローブ、および当製品を用いた半導体製造工程における前工程検査用プローブカード・後工程検査用ソケットを製造しています。日本とマレーシアに生産拠点を有し、海外生産比率は60%以上です。製品は半導体メーカーやファウンドリーを中心にグローバルに提供しており、海外販売比率は80%を超えています。

近年では、マイクロウェーブ技術も併せて活用した5Gデバイス検査用ソケットやMEMS加工技術を駆使した高周波電子部品検査用プローブカード (YPX) など最先端分野向けの製品ラインアップも拡充しています。また、2021年度のコンタクトプローブ年間平均生産本数は約620万本でした。

### セグメント概況 (2021年度)

当セグメントの主要市場である半導体検査市場は、テレワークやオンライン学習拡大などに伴うハイエンドPC向け需要が増加したことに加え、クラウドサービス向け/スマートフォンほか電子機器向け半導体の需給逼迫により、検査需要は極めて旺盛な状況が続いています。

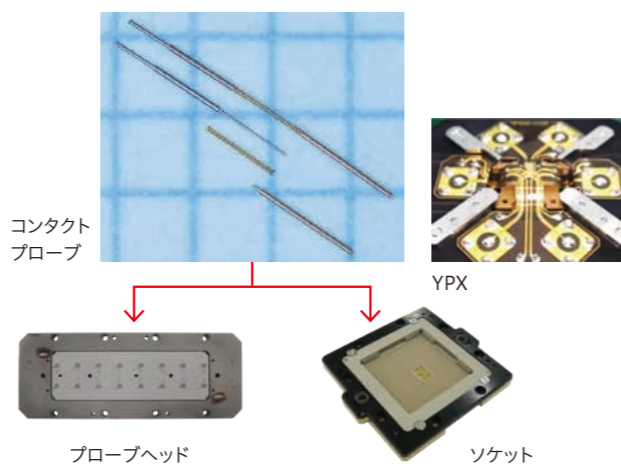
このような状況の中、当社グループの主力製品である半導体後工程検査用治具の販売は、ロジック半導体検査用ソケット・高周波検査対応ソケットの旺盛な受注増および新規量産立上げなどにより、前期を上回りました。半導体前工程検査用治具の販売も、周辺機器を含めてワンストップソリューションでサービスを提供するターンキービジネスが順調に拡大したことなどにより、前期を上回りました。また、高周波電子部品検査用MEMSプローブカー

ド (YPX) の販売も、5G対応スマートフォンの普及を背景に受注が増加し、前期を大幅に上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は17,625百万円(前期比+33.1%)と、前期比で増収となりました。セグメント損益については、原材料価格上昇によるコストアップはあったものの、増収および円安に伴う増益に加え比較的利益率の高い製品の比率上昇などにより、4,871百万円の利益(前期比+81.6%)となりました。

### セグメント方針

今後は、5G、IoT、車載、AIといった分野での半導体検査需要増を確実に取り込んでいく方針です。そのために、5G通信向けの高周波・高速信号検査市場をターゲットとした戦略製品の開発・投入、国内およびマレーシア工場における能力増強投資と国内分工場およびベトナム工場での立上げ、自動組立ライン構築・自動検査システム導入など効率化および合理化投資、半導体前工程検査領域でのターンキービジネス拡大に向けた本格的体制強化を強力に推進し、さらなる高収益体制の構築と安定的な事業運営に努めていきます。



## 無線通信機器セグメント

▼ 無線通信機器連結売上高推移

(単位：百万円)

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
6,158	7,429	8,498	9,441	<b>9,141</b>



### セグメント概要

当セグメントは、ファインコネクタおよびメディカル・デバイスの2事業で構成されています。

ファインコネクタ事業については、電子機器の着脱部分に対して簡易に接続可能なスプリングコネクタを日本、マレーシア、中国で製造しており、海外生産比率は80%以上です。製品は国内外の多種多様な電子機器メーカー向けに提供しており、海外販売比率は80%を超えています。メディカル・デバイス事業では、OEMガイドワイヤ、カテーテルなどの微細精密部品に加え、アッセンブリ品の設計から開発・製造までを富岡工場 (群馬県) で行っています。製品は国内の医療機器メーカーを中心に提供しており、海外販売比率は10%ほどです。

### セグメント概況 (2021年度)

当セグメントの主要市場である携帯通信端末市場は、スマートフォンの販売が鈍化傾向にある一方、ウェアラブル端末は多様化・高機能化により今後の成長が見込まれています。POS端末市場は、物流/製造をはじめとする幅広い業界において、情報管理による業務効率化実現の観点から着実な成長を続けているほか、産業機器などの他市場も成長が期待されています。

このような状況の中、微細スプリングコネクタを中核製品とするファインコネクタ事業においては、半導体不足の影響やASEAN地域における新型コロナウイルス感染症の再拡大による顧客の生産調整などの影響により、第2四半期以降、POS端末向けやワイヤレスイヤホンなどウェアラブル端末向けの販売が減少したことなどから、売上高は前期を下回りました。

当セグメントに含めているメディカル・デバイス事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により上期は受注が弱含んだものの、下期以降はユニット品の新製品販売とベンチャーエコシステム向け販売が増加したことにより、売上高は前期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は、9,141百万円(前期比△3.2%)と、前期比で減収となりました。セグメント損益については、ファインコネクタ事業における減収に伴う減益に加え、人民元高などによる中国生産拠点における労務費比率の上昇、事業構成変化などにより、1,256百万円の利益(前期比△39.1%)となりました。

### セグメント方針

ファインコネクタ事業では、市場の差別化製品ニーズに沿った高機能・高速大容量といったカスタムタイプのコネクタの投入や、標準品ラインアップの拡充による新たな需要の取り込みの加速により、事業の拡大と製品・市場・顧客の“重層化”に引き続き取り組んでいく計画です。

メディカル・デバイス事業については、最先端の生産設備導入による微細精密部品の生産能力増強と、ガイドワイヤ/カテーテルアッセンブリ品の国内外への拡販推進によるさらなる事業成長を目指すとともに、日本国内のベンチャー企業の製品アイデアを具現化する製造パートナーとして、ベンチャーエコシステムの取り組みを強化し、米国をはじめ世界的に拡大する先端医療分野での事業拡大を見据えたサプライチェーンの“重層化”も推進していきます。

